

# KURE KOSEN

 National Institute of Technology, Kure College

## 呉高専だより



第53回全国高専体育大会 ソフトテニス競技優勝、3位で呉市長を表敬訪問  
※関連記事 20頁

呉高専と保護者をつなぐ情報紙



### 目次

●校長あいさつ 夢を、ありがとう	2
●役職員あいさつ Go For Broke!!(当たって砕ける!!) (後援会会長 藤野 聖一) ロサンゼルス夜景は最高! (副校長 黒木 太司) 平成30年7月豪雨を振り返る (教務主事 篠部 裕) 将来への志を持つために (学生主事 西坂 強) よき人生を (寮務主事 外村 彰) 本年度を振り返って (専攻科長 中迫 正一) 学生相談室の活動とこれから (学生相談室長 佐賀野 健) 318名の学生が海外研修体験 (国際交流室長 尾川 茂) インキュベーションワーク4年目 (インキュベーション・デザイン室長 林 和彦) 近況報告 (広報室長 間瀬 実郎)	3 4 5
●卒業生・修了生へ 機械工学科 機械工学科第5学年卒業おめでとうございます <担任> 岩本 英久 電気情報工学科 電気情報工学科卒業生にむけて <担任> 横沼 実雄 環境都市工学科 卒業に寄せて <担任> 及川 栄作 建築学科 ご卒業おめでとうございます <担任> 下倉 玲子 専攻科 修了生のみなさんへ <専攻科長補> 上寺 哲也	6 8 10 12 14
●進路速報(平成31年1月現在) 平成30年度卒業・修了予定者 就職・進学速報	16
●2018年度の呉高専日誌から 教育・研究 インキュベーションワーク クラブ活動 イベント等	18
●部活動の成果、受賞実績	22
●新聞・TVに載った呉高専、教育改革の成果	23

# 校長あいさつ



## 夢を、ありがとう

校長 森野 数博

「Realize Your Dream」本校に着任する前、呉高専の様子を知ろうとHPを開きました。そのときこの言葉がキャッチフレーズだと知り、嬉しくなったことを鮮明に覚えています。在職していた7年間のあいだに呉高専は大きく変わりましたが、私自身、みなさんから夢を与え続けていただきました。この間、私自身でやれることはほとんどやり尽くし、すがすがしい気持ちにあります。

着任時の呉高専は元気がありませんでした。勉学面もしかり課外活動もしかり、先生方の研究面もまたしかり。地域との交流も少なく、暗い雰囲気が学内を席捲。正直なところ、どこから手を付けてよいかかわからない状況にありました。悶々とした時期が2年ほど続きましたが、上昇のきっかけとなったのは、広島テレビで放映された「ぐるぐるスクール」。以前の高専だよりも書きましたが、平成26年2月に放映されたこの番組が契機となり、いろいろなことが好転し始めました。

「理系エリートが集まる呉高専」「何もかもが規格外」。テレビが映し出す映像は、まさにそれそのもの。テレビ局が付けたそんなキャッチフレーズや映像が、自信を失いかけていた我々を目覚めさせ、勇気を与えてくれました。

毎年発行している高専だよりのなかで、その時々々の状況を散文的にまとめていますが、そのタイトルを改めてながめてみると、この7年間の本校の歩みがよくわかります。

- H24: さあ、これからだ！ ～巳年、呉高専の可能性～
- H25: 2年目の夏に想うこと<「夢の実現」に向けて>
- H25: レنزは語る「ぐるぐるスクール」
- H26: 3年目の夏に想うこと<50周年、追い風に乗って>
- H26: 自分の可能性に蓋をするな
- H27: かいいた汗、流した涙はウソをつかない
- H28: 続 かいいた汗、流した涙はウソをつかない
- H29: ちょっときいて、呉高専

嬉しいニュースが飛び込んできました。平成31年度に向け概算要求していた図書館・教育センターの改修が採択されたとのこと。申請し始めて2年目の吉報でした。概算要求事項は億単位の経費を伴うことから、採択されるまでに5年程度はかかるのが通例。しかし、1年目のヒアリングから大きな手ごたえを感じていました。決め手になったのは、我々がやってきた諸々の教育改革の成果です。インキュベーションワークがそれであり、改組した専攻科の取り組みもそれ。時代を先取りし、全学挙げて開発・実践してきた「地域から見出した課題を解決に導く力」を育てる教育システム。我々が地道に積み上げ

てきた汗の結晶がこの早期改修につながりました。いい置き土産ができたこと喜んでます。

もうひとつ。1月末に東京で開かれた高専教育シンポジウムにおいて、専攻科の大室ひなさんが高専の学生代表として登壇しました。

テーマは「進化する高専教育」副題は「学生の「チカラ」保証します」彼女の発表タイトルは「高専で学んだグローバル・ローカル」高専は技術力に加え、留学選択の自由度の高さなどグローバルな環境がある。それに加え、IWに代表される地域密着プロジェクトや産官学協働などローカルなことを行う環境が整っており、この強みを活かしてこそ初めて真のグローバルな技術者が育つのだと。秀逸でした。その日午後のシンポジウムや翌日の校長・事務部長会議でたびたび大室さんのことが取り上げられ、「このような学生を育てて欲しい」と。彼女の努力はもちろんですが、彼女の優れた才能をも十分に伸ばす教育・研究環境を整えることができたことに、安堵の思いがしたことでした。

いま呉高専は他校から恐れられる存在になっているようです。たとえばロボコン。今回の全国大会。本番途中で動かなくなりました。それにもかかわらず特別賞を受賞。

NHKの放送では次のように紹介されていました「今回、最も恐れられていたのが呉高専」テストランどおり動いていれば最高得点を上げ、その奇抜なアイデアは全国から喝采を浴びたことでしょう。進行役の小島瑠璃子さんが閉会式で「呉高専のロボットが動くのを見たかった」と唯一固有名詞で紹介。数年前まで鳴かず飛ばずのロボコン部でしたが、直近の5年間で4回も全国大会に出場するなど、着実に力をつけてきています。デザコンの構造部門も、常に大臣賞を争う強豪校に成長しました。プレコンも中国大会では暗唱部門で2連覇。体育系クラブでもソフトテニスやテニスは結果を出してきており、バレーやバスケット、サッカーや陸上・水泳も十分に怖さを秘めた存在になっています。あと一息。競い合いからもうひと皮むけ、他校の目標・あこがれとなる存在になってほしいなあと。

「文句なし」にいい学生を育てたい、その思いでやってきましたが、その基盤は固まったかなと。学生のみなさん、後援会や同窓会のみなさん、そして教職員のみなさん、夢をみさせてくれてありがとう。

みなさんには次の時代に向け、坂の上の雲をめざし、さらに大きく飛躍されんことを心から祈っています。

# 役職員あいさつ



## Go For Broke！！(当たって砕けろ！！)

後援会会長 藤野 聖一

本科卒業生、専攻科修了生のみなさんご卒業、ご修了おめでとうございます。

卒業、修了にあたり私の大好きな言葉を贈ります。

「Go For Broke！！(当たって砕けろ！！)」

これは「昭和」と言う時代が終わりを告げようとしていた昭和62年(1987年)10月14日、「巖流島の戦い」と言われる時間無制限、ノーレフェリー、ノールール、無観客マッチにアントニオ猪木との戦いに挑んだプロレスラーマサ斎藤の信条である。一見投げやりにも聞こえるこの言葉が30年以上経った今でも心に残っているのは何故だろう。私が単なる「プロレス好き」も理由のひとつだがそれだけではない。それは彼が若い頃、アメリカマットのヒール役(悪役)で培った「何があっても挫けずに、与えられた場所で与えられた事にいつも精一杯努力する。」「たとえそれが無理難題でも、やる前

から諦めてはこれから先も諦める人生が続く。だから絶対に諦めない。」と言う鋼の精神をこの言葉の奥に感じるからである。

「平成」と言う時代に生まれ新たな時代へと変わる年に次のステージへ進むみなさん。みなさんには呉高専で培った技術をベースに大きな夢を持ってチャレンジしていただきたい。ある意味呉高専は特殊な環境にあり、みなさんが進む次のステージではマジョリティ(多数派)サイドではなく、マイノリティ(少数派)サイドとなることへの覚悟も必要である。決して平坦な道ばかりが続くわけもなく、たくさんの失敗もする。いくら失敗しても構わない。それがキャリアとなる。

キャリアは上がったたり下がったりするものではなく「残す」ものである。みなさんには決して諦めることなく「自分の生きた軌跡を残していただきたい。因みにマサ斎藤は「巖流島の戦い」には敗れたが、伝説となり昭和オヤジたちの心に永遠に残り続けている。



## ロサンゼルス夜景は最高！

副校長 黒木 太司

昔は六甲山から眺める神戸市街が有名で、百万ドルの夜景と謳われました。我らが灰ヶ峰から眺める夜景も個性ある色彩を放っています。ぜひ大切な人を同伴し、歴史に思いを馳せながら鑑賞して欲しい。東京は無人数野を行くか如く他の追従を許さず、着陸寸前の機窓は絶景です。

今年1月渡米の折、フロリダ発の航空機が帰国便の待つロサンゼルス上空に近づくと、学生達は宝石箱をひっくり返したような夜景に夢中でシャッターを切っていました。金銀煌めくこの街並みを彼らほどのような思いで見られたのであろうか。

あまり公言していませんが、私の父は鹿児島県鹿屋海軍特攻隊の軍人で、復員したことを最後まで後悔していました。ことあるごとに「米国に負けたのは日本を上回る技術力と、軍事兵器・物資数であった」と。私が呉高専に入学を許可され、貧しい家庭環境ながらも最高学府まで勉学させて頂いた陰には、「技術で欧米を凌ぐべく日本に貢献せよ」という願い

があったに違いありません。

その後毎年のように渡米し敵情を視察していましたが、初めて接したロサンゼルス夜景には唯々愕然。ピンポイントな各国の夜景に対し、ロサンゼルスのそれは七色の宝玉が果てしなく続く。エネルギー消費を惜しまないこの国を凌駕するには米国を上回る技術力が最重要であることをこの時に認識させられたのです。

今年もこの夜景を見るに「日本は今ままで良いのか」という思いに駆られ、初心に立ち返ります。研究室では十年一日の如く欧米学生に匹敵する人材の育成を標榜していますが、その契機がロサンゼルス夜景であったことは言うまでもありません。

皆さん、これだけは覚えて本校を巣立ってほしい。我が国がどのような状況になろうとも努力を惜しまぬ高潔な人材には必ず三顧の礼が尽される。半歩でもいいから進んでみよう。

# 役職員あいさつ



平成30年7月豪雨を  
振り返る

教務主事 篠部 裕

平成30年7月豪雨は、西日本各地に甚大な被害をもたらしました。呉高专においても呉市の断水やJR呉線等の一部区間の運休の影響により、通常通りの授業を実施することができなくなり、8月からの夏休みを急遽、前倒して行うなどの対応となりました。

前期授業が再開した9月3日にはJR呉線は未だに一部区間が運休の状態であったため、授業開始時刻を1時間繰り下げるなどで対応することになりました。呉線三原方面の全線運行再開は12月15日となり、通常の授業開始時刻に戻ったのは年明けの1月7日でした。三原方面からの通学生など一部の学生には大きな負担をかけることになりましたが、各学生が通常より早めに自宅を出るなど協力してくれたお陰で、大きな混乱なく授業を実施することができました。学生、保護者及び関係者の皆様にこの場をかりて改めて感謝申し上げます。



将来への志を持つために

学生主事 西坂 強

学生達が将来社会へ旅立つ際に、成人として相手を尊重し協力し競い合うことのできる考えを持つ人材を育てるために、厳しさの中で優しさを加味できる育成指導を行っています。

具体的な指導項目は①挨拶のできる学生②身なりの整った学生③ルール・マナーを遵守できる学生④クラブ活動において積極性、協調性を実践できる学生の4項目を基本としています。特に、学生主事室は学生会と話し合いながら、より良い学校になる為に学生達と向き合って進めています。

挨拶と身なりについては、教職員からの率先垂範をお願いして小さな花が数多く咲きつつあります。しかし、スマホ等による迷惑行為やルール・マナーの守れない事例もあり、重い処分指導を行いました。日常の親切な行動や西日本豪雨災害のボランティア活動が被災者の方達から丁寧なお礼のお手紙を本校学生宛に頂くことがあり、良い行動も身についてきており誇らしい限りです。一方、クラブ活動では、個人目標、グループ目標、チーム目標を設定し全国で常に活躍できる内容にステップアップしながら、学生間、コーチ、顧問、OB、OGそして保護者と連携した体制を通し、目標のためのリーダーシップやメンバーシップを養い、人として成長してくれることを期待しています。

卒業する学生諸君は、社会人として世間に迎えられる一歩目は自身の規律と行動であり、母校で体験した挨拶や身なりに加え自らが確りとした責任行動が出来るよう、新しい扉を開けて歩いて行ってもらいたいと願っています。



よき人生を

寮務主事 外村 彰

皆さん、いよいよ卒業ですね。個人的には環境都市工学科1～3年の担任をしたので、この学年にはひとしおのこだわりがあります。

これから皆さんは進学ないし社会人となって、何らかの使命を自覚して世間の波にもまれながら、未知なる人生に立ち向かってゆくのです。かけがえのないこの人生は二度ありません。挫折はかならず人生につきものですが、後悔しても時が戻ってくることはありません。前を向こう。とり戻せない失敗があったとしても、それを前へ進む糧にしよう。なるべくいつも笑って過ごしましょう。

自分を磨き、自分にしかない生き方を問い続け、なにかひとつ、ひたむきにうちこめるものを見つけて行ければ。その一方で他者とうまくつきあって、ながい信頼関係を築いて行ければ。はるか遠い向うにそびえる山嶺へと、憧れを胸に、ほんとうの仲間たちと登ってゆく……そんなよき人生を皆さんが送れることを「孤高の詩人」は心から願っています。



本年度を振り返って

専攻科長 中迫 正一

新専攻「プロジェクトデザイン工学専攻」に改組後3年目を迎えました。本年度を振り返って専攻科の現状をお知らせします。

まず、4月には43名の入学生を迎え、改組後初めて入学定員(40名)を超える学生が進学しました。本科・専攻科の7年一貫教育への取り組みが少しずつ浸透し、本科卒業後の進路として定着してきたと感じています。

また、今年度修了生より特例による学位取得が適用され、小論文試験を受けることなく(学士(工学))の学位が取得できるようになっています。

さて、専攻科では修了までに学会にて研究発表を行うことが義務づけられていますが、最近では国内の学会に止まらず、海外での国際会議で発表する機会が増えてきました。大学生や大学院生が参加する学会において、本校学生が若手優秀発表賞や優秀ポスター賞を受賞しており、専攻科生の今後の成長と活躍を期待しています。



## 学生相談室の活動とこれから

学生相談室長 佐賀野 健

ここでは今年度の学生相談室の活動について少し紹介します。まず、呉高専における学生相談の件数ですが、年々増えてきており、その内容も多様化しています。このような状況に対して、高専機構の学生支援体制の再整備予算により、6月から外部カウンセラーを一名増員できました。これにより、授業期間のほとんどの平日放課後にカウンセラーが待機する体制をとることができました。また、相談室員と学科教育主任を兼任する組織変更をし、問題ごとに教育主任・担任・カウンセラー・看護師・学生相談室長でチームを編成し対応していったことで、よりスピーディーな問題解決が可能になったように思います。

来年度には、学生相談室の移動・改修も予定されています。学生にとって学生相談室がより使いやすい存在になり、充実した学生生活を裏からサポートできればと考えています。



## 318名の学生が海外研修体験

国際交流室長 尾川 茂

昨年318名の学生が海外研修に出ました。全国の高専でNO.1の数だと思います。

これまでは3年生で海外研修でしたが、より感受性の豊かな年代の学生が海外体験し、大きく変わる世界を見ることが大切であることを提案し、2年生に移行しました。今年はその過渡期にあたり、2学年同時の台湾研修でした。故宮博物館見学や夜市体験、そして2年生は基隆高級商工職業学校の高校生と、3年生は海洋大と中央大の大学生との交流を通じ、両国の文化や食べ物の違いを体感し、同年代の学生間の交流を深めました。学生にとって大きな宝となりました。

国際交流室長を6年間担当させて頂きました。赴任直後の大役でしたが、室員の皆様のお力を借りながら、学生を海外に連れ出したいの思いから行事を計画して参りました。その最終年に、2年生海外研修が学校行事として実現したことは、誠に嬉しい限りです。

高専の強みである専門力に加えて、グローバル視点で物事が考えられる「スマートエンジニア」になって欲しいとの思いから、「世界を知る」・「世界と対話する」そして「世界に挑戦する」の3ステップで年間行事を推進してきました。

今後、2年生の海外研修が定着し、より多くの学生が留学や国際会議を体験し、世界に羽ばたいてくれることを切に願っています。



## インキュベーションワーク4年目

インキュベーション・デザイン室長 林 和彦

インキュベーションワークでは、自分の心や気持ちの殻を破るために、「とりあえずやってみる」をモットーに行動することを学生に求めています。

また、好きなことをテーマにすることを推奨していますが、学生よがりの活動にならないように、学外の人と連携することも推奨しています。

インキュベーションワークも4年目になりましたので、自主的に活動し学外との連携も活発に行っている学生の成長ぶりは、目を見張るものがあります。事実、そのような学生は、連携した学外の方々からも大変高い評価をいただいています。学校だけでできる教育には限界がありますので、インキュベーションワークでは、地域や企業や行政の方々との協力を得て、現場で学ぶスタイルを重要視しています。

現場で活きた教育を受けた学生は、そうでない学生と比べ、一足先に大人になっている感じがします。

これからも、学生が学外で活躍できる場を増やしていきたいと考えています。



## 近況報告

広報室長 間瀬 実郎

本校のホームページの「呉高専日誌」を御覧になったことはありますか？学生や教職員の日々の活動を写真とサマリーでまとめ、トップページに掲載しています。学生や教職員自らが執筆し、ほぼ

毎日更新しています。昨年2月にはスマートフォン版のホームページも作り、いつでもどこでも呉高専の活動を見ることが出来るようになりました。この呉高専日誌は、毎月1万～4万回の外部からの閲覧数があり、本校ホームページの「主力商品」となっています。

また、中国新聞の本校関連の記事掲載も、年間およそ50件ほどあります。教員学生の研究活動や、地域貢献など内容が多いですが、2018年は豪雨災害での本校の教員、学生による復旧活動関連の記事が特に多かったです。

一方、学生が運営するネットラジオ「ちょっときいて呉高専」も開局後1年が経ちました。パーソナリティは学内だけでなく、学外のゲストも多く登場したり、遠隔地とつないだトークもあり、バラエティ豊かな内容になってきました。呉高専ホームページのパナーから聞くことができます。

本校の広報活動にご協力いただいている方々にこの場をお借りしてお礼を申し上げます。

# 機械工学科



## 機械工学科第5学年卒業おめでとうございます

機械工学科5年担任 岩本 英久

御卒業おめでとうございます。謹んでお祝い申し上げます。

私は、4年次から担任を担当しました。私にとって、久しぶりのクラス担任なので、無事に勤めることができるかどうか、不安を感じておりました。そこで、私自身に、ある義務を課すことにしました。それは毎日、朝のショートホームルーム（SHR）をすることです。始業10分前に、ホームルームで連絡事項を伝達し、学生の様子を把握することにしたのです。狙いは、私自身がクラスに対して、アイデンティティを持つことにありました。しかし、学生たちに朝のSHRに出席することを強制しませんでした。一方で、情報が必要な学生に対しては、SHR後に個別対応でしっかりとフォローしました。すると、2つの効果がありました。一部の学生は常にSHRに遅れるのですが、ほぼ、授業が開始される前には全員揃うようになりました。また、私は一人一人の名前と顔が一致するようになり、性格も手に取るようにわかるようになりました。当初の狙いの通り、私の中に、クラスに対するアイデンティティが形成されるのを感じました。副産物として、遅刻が少なり、伝達事項に抜けがなくなるようになりました。さらには、清掃活動も毎週、指導しましたので、整理整頓ができる規律正しいクラスになりました。5年生に進級してからはSHRの回数を減らし、後期には0にしました。そのため、出席状況や服装・髪型が乱れるような感じになってしまいましたが、自律・自立するには、いつまでも私の指導があってもならないと思っています。学生たちは卒業と同時に自律・自立しないといけません。

さて、35名の進路についてご報告します。

進学において、編入学先は九州大学（推薦）、豊橋技科大学（2名中1名は推薦）、茨城大学（推薦）に進学します。

専攻科は14名で、あわせて18名が専門に磨きをかけます。

全員が第1志望に合格し、進学します。

就職においては17名で、その進路先は、旭化成、出光興産、NTTファシリティーズ中国、花王、サントリー（4名）、中国電力、ディスコ、テルモ、日東電工、日本製鋼所、マツダ（2名）、ミットヨ、村田機械（あいうえお順）です。すべて、超一流の大企業で、ほとんどの学生が1回目の試験（つまり第一志望）で内定を勝ち取りました。専攻科へ進学する学生たちの2年後の進路も素晴らしい結果となることでしょう。

卒業後は、学生たちにおいて想像できない状況が多く発生するでしょう。思いもよらないトラブルにも巻き込まれるでしょう。「やればできる！」なんて言わないでください。そんな根拠のない慰めは、困難に立ち向かわない、やる気のない人の言葉です。少しは愚痴りたくなる時もあるでしょう。そんな時は、呉高専と一緒に学んで一緒に卒業した仲間たちを思い出してください。皆さんが定年を過ぎても続くであろう、仲間たちを大切にしてください。一緒に笑って、一緒に困って、一緒に勉強した仲間のことを「宝」にして、人生を歩んでほしいと思います。

君たちの人生の中で、たった2年間だったけれど、私は一緒に過ごせたことを誇りにしています。よき人生を歩むことをお祈り申し上げます。本当におめでとうございます。

# 5年間を振り返って -呉高専日誌より-

平成28年10月3日

## 機械工学科3年 台湾研修旅行

機械工学科3年 成田 勇輝

9月19日(月)から9月22日(木)まで、台湾研修旅行に参加しました。  
1日目は故宮博物院で台湾の至宝を見学しました。館内はとても広く迷子になりそうでした。その後、台湾のために命を落とした人々を祀る忠烈祠で、憲兵の交代式を見学しました。静寂の中、まばたきもせず、一糸乱れぬ動きをする憲兵を見てみんな驚いていました。  
2日目は国立中央大学の機械工学科の学生と交流しました。日本語が全く通じないので英語でやりとりをしました。改めて英語は話せた方が良いと実感しました。  
3日目は『千と千尋の神隠し』のモデルになったと言われている街、九份を見学しに行きました。山奥にもかかわらず観光客の方々が沢山いて驚きました。宮崎駿さんは世界でも影響があるんだと実感しました。4日目は金品茶樓という店で本場の小籠包を食べました。まさに絶品でみんな感激していました。

この4日間で、日本の常識は世界の常識とは違うということ学びました。この体験を今後に生かしていきたいと思えます。



平成29年10月7日

## 機械工学科4年 インターンシップ報告会

機械工学科4年担任 岩本 英久



10月7日(土)の視聴覚教室にて、呉高専機械工学科第4学年インターンシップ報告会を実施しました。

夏休み中に実施された校外実習について、自身の成長を自覚し、実習成果を共有するために開催されました。今回は一部の受入企業と保護者も参加しました。

参加企業はジャパンマリユニテッド株式会社の他5社で、保護者は31名です。

今回のインターンシップ報告会において、保護者の参加は呉高専で初めてではないでしょうか。学生たちは企業と保護者を前に恥ずかしいプレゼンテーションはできません。さて、インターンシップを実施するに当たって、学生にとって必要なことは事前の目標設定です。実習前と実習後の変化こそが学生の成長そのものなのです。もし、実習前に目標がないと、定量的な自己変化を認識できなくなります。今回の発表はその自己変化を検証する場となりました。

また、「ものづくりは一人ではできない。質の高いものづくりのためにも、円滑な連携のためのコミュニケーションが必要だ」と多くの学生が認識していました。

平成30年6月9日

## 機械工学科5年 創造製作「ヤンセン椅子」

機械工学分野 岩本 英久



今年は「ヤンセン椅子」を製作します。どんなものかは、完成してのお楽しみ。

さて、午前中は藤本君と元木君の2名で、図面にらみながら罫書きをして、棒材の切りだしを行います。

昼休みの後、午後から新吉君と土井君も参加して、ドリルで穴あけを行います。旋盤やフライス盤も使用します。

6月9日(土)に実習工場を貸し切って、機械工学科5年前期1単位「創造製作」(選択科目)のための機械加工を行いました。

1年生から身につけてきた機械加工の技術をフルに発揮します。手際よく、作業が進行します。彼らのものづくり力は本物です。

完成品は7月29日(日)に開催される学校見学会でご披露します。楽しみに待っていてください。



平成30年12月12日

## 機械工学科5年トライボロジー授業にて「日本品質の軟包装について体験授業」

機械工学分野 西坂 強



12月12日に機械工学科5年生選択授業のトライボロジーで、摩擦・摩耗・潤滑に関する品質調査をテーマに、香川県にある包装資材メーカー(ユニードパック株式会社本社)を訪問させていただきました。

会社紹介で高専OBの永森社長から社会に出る高専生に対する熱いメッセージを学生達が心に受け取る所から始まりました。

無地フィルム素材から印刷・ラミネート・袋加工の付加価値を加える3部門の品質に関する課題調査を行いました。各班別に指導者を1名配置して頂き、現場の緊張感を体感しながら日本品質に対する技術的取り組みを学んだと思います。

学生達は12/20に各テーマ別に発表があり、柔軟な発想と授業で学んだことを融合した品質改善策を提案して頂くことを楽しみにしています。

最後に、今回の訪問調査に快く工場を提供して頂いた会社幹部の方々に心よりお礼を申し上げます。

# 電気情報工学科



## 電気情報工学科卒業生において

電気情報工学科5年担任 横沼 実雄

私事です、私が呉高専に着任したのが平成7年度ですから、今年度で24年分の卒業生と関わってきたことになります。今年の5月には元号も平成から新しくなりますから、平成で卒業生を送り出せる最後の年に、その卒業生を担当できたことは感慨深いものがあります。

一方、これまでに関わった卒業生のクラスには、年毎に違ったカラーがあったように思います。実際には色で表現は難しいので、一教員から見たクラスの印象、特に学校行事での様子や授業も含めたホームルーム内の様子ということになります。

学校行事からの印象、特に体育祭や球技大会など複数の競技種目のある行事で明確に表れます。電気情報工学科の学生は他学科に比べてインドア派が多く、体育系行事には冷めているのが全体的な傾向です。このクラスも全体傾向は似ているのですが、何故か特定種目に熱を入れる所が特徴だと思います。

例えば、球技大会ではバスケットボールがそれに当たり、得意な子や出場選手が熱くなるのは当然でしょうが、日頃冷めている見て

いるだけの学生が熱を入れて応援する姿が見られます。冷めているかと思えば熱く入れ込む所があり、さりとて全競技に頑張るかと思えばそうでもない。ホームルーム内の様子も不思議で、普通に島ができるような雰囲気、幾つかのグループに割れる関係性かと思えば、誰か課題などで困っていれば割合に他の者が教えていたりする姿を見ます。

矛盾しているような、どっちつかずの印象なのですが、恐らく例年のクラスに比べ多様なタイプが居て、グループ単位と個人単位の両方で各々上手くつきあっているからではないかと考えています。

卒業後は、就職先と進学先の違いはあれ、ほとんどの人が新しいステージと環境に進むことになります。新たな人脈を創る苦労は当然あるでしょうが、色々なタイプのクラスメートと上手く関係を創ってきた経験は、少なからず役に立ってくれるのではないのでしょうか。友好の輪を広げ、繋がりを大事にされる事を望みます。

# 5年間を振り返って -呉高专日誌より-

平成27年7月15日

## 電気情報工学科2年 LHRでの平和学習

電気情報工学科2年担任 平野 旭

被爆70周年という節目の夏に、ヒロシマに住む者として「平和とは何か？」を考えて貰いたく、2週間に渡ってLHRで平和学習をしました。

世界の核兵器保有状況、第五福竜丸事件、マーシャル諸島による核保有国の提議などについて学習しながら、核兵器保有の賛否についてディスカッションしました。普段、柔和で争いごとを嫌いな学生の中から、核抑止論に基づいた核保有に賛同する意見が上がってきたことには正直驚きました。

争いごとを嫌うからこそ出した答えなのかもしれません。正しいかどうかは別として、世界情勢を良く勉強し、17年間生きてきた中での色々な体験に基づいて真剣に意見してくれたことには感心しました。ディスカッション後は、被爆・終戦70周年という意味を込めて、大小70羽の折り鶴を折りました。思っていた以上に真剣に取り組んでくれたことが非常に嬉しかったです。

今回のディスカッションでは、核兵器保有についての結論はあえて出ませんでした。自分達の折り鶴を見ながら、クラスメイト同士で語り、考える夏にして貰いたいと思います。

学生達がどんな答えを出していくかは、しっかり見守っていきたいと思います。



平成27年12月1日

## 電気情報工学科2学年 社会見学

電気情報工学分野 平野 旭



本日、電気情報工学科2年生は、マツダミュージアムへ見学に行ってきました。

マツダミュージアムは、マツダ宇品工場の敷地内の一部にあり、予約すれば個人でも見学することができます。

エンジンや歴代の車体を始めとする色々な展示物の説明の説明を受けた後、生産ラインを見せて頂きました。ラインにおける人の動き、製造工程に使われる自動制御ロボットの様子を真剣に見ていた様子が非常に印象的でした。

電気自動車の登場により、車業界も電気情報

工学分野の学生にとって身近なものになってきました。

見学で感じたことを今後の勉強に活かさせて貰えたらと思います。



平成28年2月17日

## 電気情報工学科2年生LHR ～1年間の総括～

電気情報工学科2年担任 平野 旭

電気情報工学科2学年は46名で一年間を過ごしてきました。通常の時間割における最後のLHRでは、1年間の総括を行いました。まずは、一年間使ってきた教室の原状回復です。



キレイになった教室で総括。色々なことがありました。特に1月22日の校内駅伝大会では、ダントツの1位。事前から「絶対に優勝する」と言っていましたが、有言実行。素晴らしかったです。

クラブ活動に加え、専門資格についても多くの人が挑戦しました。危険物乙四14名、第二種電気工事士6名、基本情報処理技術者1名、電験 三種科目合格2名、英語検定2級 2名の合格と、日々忙しい中で良く頑張ったと思います。

この調子で残りの高专生活も充実したものにして下さい。



平成28年10月3日

## 台湾研修旅行記 ～電気情報工学科の巻～

電気情報工学科3年 平川 真央、米田 美由貴



私たちは20日から23日までの4日間台湾に研修旅行に行かせていただきました。

現地に到着すると目の前には日本では見られないような光景が広がっていました。町に溢れかえるバイクの量や道の端に車を停める習慣、そしてなによりも信号機の色が切り替わるまでの時間が書いてあることに驚きました。

巡る場所はすべて圧巻されるようなものばかりで、私は現地の大学生と一緒に夜市を回ったことが1番の思い出となっています。自分の英語が大学生と班員とのコミュニケーションの架け橋となる役割が果たせてとても嬉しかったです。

台湾に来るまではマイナスのイメージしかなかったのです

が、この研修旅行を終えてまた台湾に行きたいと思うことが出来ました。

これらは学校の先生方、旅行会社や現地の優しい方、そして保護者の皆さんのおかげであることを心にとめて、この旅行の幕を閉じようと思います。



# 環境都市工学科



## 卒業に寄せて

環境都市工学科5年担任 及川 栄作

環境都市工学科19期生の5年生の皆さん、卒業おめでとうございます。私は皆さんの4年生と5年生の担任を務めました。また、1年生次も副担任を務めたりと、入学時から何かとご縁がありました。

まず、みなさんの入学時からの高専生活を振り返って見たいと思います。みなさんの高専生活は、自分たちでは気づいてなかったかも知れませんが、これまでの在校生が経験しなかったいくつものことを経験した学年でした。開校50周年式典に出席したり、この記念に新調された制服を着て最初に入学式に臨みました。1年生から3年生まで外村先生が担任を務められました。森野校長を迎えて、教育革新が進み、学生が自ら考えて行動する、問題解決型の授業であるインキュベーションワーク授業が開講し、また教育項目を自ら調べたり、クラスメートと話し合ったりしながら理解を深めるアクティブラーニングが多くの授業で取り入れられるようになりました。環境都市工学科は建設コースと環境コースに分かれて専門科目を勉強する”コース制”が廃止されました。それに伴い皆さんが4年生次に、コース制の科目の多くが選択科目になりました。

インキュベーションワークやデザコンでは、クラスメートが大活躍し、インキュベーションワークの活動の成果を、全国のバイオ系の高専生が競い合う「発酵を科学する」で4名が参加して全国で3位に相当する優秀賞を受賞しました。デザコンでは、4年生次にクラスの担当学生が中心になり5位に入賞しました。

学校行事では、体育祭で3年生次に皆さんを含めた環境都市工学科の学生だけが「組み体操」を演じました。環境都市工学科の学生の気持ちが一丸となった力が感じられ、また体育祭を彩るものとなり、今でも印象に残っています。

環境都市工学科の持つDNAである、一丸になって物事を成し遂げる潜在的なパワーを皆さん自身でも感じたことと思います。このような中で、みなさんは、見事に主役を務め上げ、入学時とは見違え

るように成長を遂げました。

生活面では、広島や呉が豪雨による自然災害に度々みまわれ、社会基盤の基礎を勉強して来たみなさんは、安全で安心して暮らせる生活を築いて行くために土木技術の重要性を再認識したことと思います。卒業後の就職先で、災害に強い街づくりに関わった際の活躍を期待しています。

進路については、東京オリンピック開催と大阪万国博覧会開催が決まり、建設業界の明るい話題が多いことが影響し、皆さんへの進路指導は、始まるのも早かったですが、決まるのも早く、ほとんどの学生が希望通りの就職先へ内定しました。一方で、求人が最も多かった建設業への就職希望者が少ないことが特徴でした。進学においては、進学率が30%と例年並みですが、昨年度の専攻科の改組もあり、専攻科への進学者が10名と多くなりました。国立大学は4名が合格しました。

最後に、今日の社会はグローバル化が進み、海外からの旅行者が増え、少子高齢化社会が加速して進み中、建設業では労働者不足に陥り、海外からの労働者受け入れが決まりました。人工知能(AI)は、これまで解決が困難であった複雑で多様な人の意識や行動を解析し、交通渋滞の解消、個人の識別による犯人捜査や自動運転も可能になりました。

AIが各所で人の代わりを遂げて行くなか、10年後に無くなってしまふ仕事があるなどとされています。人生百年時代を迎え、社会の動きが益々早くなる今日、この後は皆さんも私も社会の動きを素早く読み、5年後や10年後に新たに必要とされる知識や技術を身に着ける必要が出てきます。

皆さんは、5年間高専で学んだ知識や経験を活かして、これらの困難を乗り越えて、社会で活躍されることを祈念しております。

# 5年間を振り返って -呉高専日誌より-

平成26年7月4日

## 環境都市工学科 情報リテラシーの授業

呉高専では一年生全員が情報リテラシーの授業を受けることになっています。この授業では、それぞれの学科の先生が授業を行います。講義内容は統一しています。

一年生前期は、情報リテラシーの基礎として、PCの基礎や、情報セキュリティ、メールなどの使い方など4時間学び、その後文書作成ソフト(本校ではMicrosoft Word)を使った文書作成の練習を行っています。

7月3日3・4時限目に、環境都市工学科1年生は、5月中旬から約1か月半の間に習った文書作成能力の確認の課題が出されました。課題は「自分を売り込むポスター」の作成です。皆、図を挿入したり、ページ罫線を入れたり様々な機能を使いながら、ポスターを作成していました。

これからレポートを作成したり、計算をしたり、プレゼンをしたりと高専生活の中で、情報処理能力は必要不可欠です。しっかりと身に付けて、自由自在に使えるようになってください。そのためには「慣れる事」が重要です。たくさん練習してください。

環境都市工学分野 加納 誠二



平成26年7月9日

## 環境都市工学科 技術者入門・専門実習の様子

環境都市工学分野 三村 陽一

1年の前期に開講されている技術者入門では、様々なグループワークを行っています。今回は、その一環で行った環境都市工学科の専門実習の様子をご紹介します。

環境都市工学科の専門実習では2グループに分かれて、鉄筋コンクリートの載荷実験と水質に関する実験を行いました。

写真(左)は鉄筋コンクリートに関する実験の様子です。私たちのまわりには橋や道路などでたくさんのコンクリートが使われています。したがって、快適で安全のまちづくりにはコンクリートに関する知識が不可欠です。環境都市工学科のカリキュラムにはコンクリートの材料・構造に関する授業が2年生から5年生までまんべんなくあります。

今回の実習では様々な授業を学んで4年の後期に行う実験をいきなりやってみました。

今回の実験では、想定していたものとは違う破壊形態でした。今はまだピンと来ないかもしれませんが、一生懸命勉強すると想定とは違った形態になった理由がわかるかも知れません。3、4年生になって「あのときの理由は〇〇でしょ?」と言ってもらえる日を楽しみにしています。



平成28年4月22日

## 環境都市工学科3年 水環境工学でアクティブラーニング試行中

環境都市工学分野 谷川 大輔

環境都市工学科の3年生では、水環境問題や上下水道について学ぶ「水環境工学」という科目があります。昨年度までは、パワーポイントによる講義を実施した後プリント課題を行うという形式で講義を進めていましたが、今年度からアクティブラーニングを導入しました。

今日の講義内容は、閉鎖性水域で発生する水環境問題である「富栄養化」について。瀬戸内海に接する呉にとっても身近な環境問題です。

テーマは、「富栄養化した水域をどうすれば改善できるか?」。各自で案を考えた後、グループに分かれてディスカッションを行います。

ディスカッションでは、自分の案をグループ内で説明し、フィードバックを受けます。その後、グループとしての案を決定し、代表者が発表します。

各グループからは、富栄養化によって大量発生したプランクトンを船や機械を利用して物理的に取り除く案、表層と低層を強制的に攪拌し富栄養化の発生を防止する案から、大量発生したプランクトンに油をかけて燃やす、回遊魚の特性を利用して水域を攪拌するなどユニークな案も出てきました。

発表ごとに質疑の時間を取り、全発表終了後、私の方で講評を行いました。どの案も、問題の本質をつかんでおり、その発想力に驚きました。今後も皆さんの柔軟な発想力に期待しています。



平成29年12月12日

## 環境都市工学科4年 現場見学(休山トンネル長迫工事)

環境都市工学科4年 松原 翔太

今回お世話になった国土交通省の皆様、株式会社奥村組の方々に厚くお礼申し上げます。



12月12日(火)の午後一般国道185号の休山改良休山トンネル長迫工事の現場見学に行ってきました。呉高専の学生だけでなく発注者である国土交通省の方も

一緒に見学しました。

休山トンネルは、現在は2車線で一本のトンネルですが、交通量の増加により車線を現在の倍の4車線に増やすために、新しく並行したトンネルをもう一本施工しています。今年度末が工事完了の予定で、全長1.7kmの内あと40m程度で貫通するそうです。

貫通間近という貴重なトンネルの工事現場の見学で、とても有意義な体験となりました。

写真(左)はトンネルの最深部で切羽(きりば)と呼ばれるところです。今回は特別に普段は立ち入ることができない危険な場所まで見学させて頂きました。

写真(右)は防音扉で、火薬を使い発破掘削でトンネルを掘り進めている際の爆発音をこの防音扉で小さくしています。



# 建築学科



## ご卒業おめでとうございます

建築学科5年担任 下倉 玲子

建築学科5年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。長い高専生活をやりとげ、やっと新たな門出を迎えることとなったみなさんに、心からお祝いを申し上げます。

みなさんが本科4年生の時から担任することとなった年は、高専教員になって10年目でした。4・5年生は持ち上がりですので、つまりは就職進学担当という役で、気が重い思いでした。しかし、みなさんと向き合ってそれぞれの進路のために世話をすることはやりがいがあり喜びに満ち溢れた体験でした。

「〇〇に内定頂きました」「〇〇大学に合格しました」と報告を受けるたびに喜びはやってきます。不合格通知を聞けば次の手段を考えるのみで、担任の腕の見せ所です。みなさんは真剣に将来を考えそれぞれに合った道へ導かれたと思っています。履歴書のチェックや面接練習を一緒にした人も多くいます。これは時間は取られますが、みなさんの知られざる面を知る良い機会でした。みなさんには、学業成績や生活態度では見えてこない良い所がたくさんあります。

就職組の中には、内定までのプロセスが大変な自由応募で希望の就職先に果敢にチャレンジする学生がいました。他の学生が推薦で早くに内定が決まっていく中、粘り強く頑張っている姿はとても頼もしかったです。そして、みんな希望の就職先に内定をもらってくるのでびっくりしました。精神的につらかったのは公務員希望の人たちもそうでしょう。頑張りましたね。

進学組の大学編入合格発表も驚きの連続でした。今までなかなか

か合格が出なかった所、とにかくレベルの高い所、どんどん合格してくれて私は鼻高々です。

5年生でのもう一つのチャレンジは、卒業研究・設計だったと思います。面倒だと思いながら取り組んだ人もいるかと思いますが、しかし、卒業研究・設計には自分の考えを組み立て、図や文章にし、構成していく総合的な力がつきます。

100歳まで生きる時代、所属する企業や大学での活動以外に、地域と関わったりしながら活動したり、複数の仕事を掛け持ちする、とにかく「これだけ」ではなく「あれもこれも」でできることが生きる力となると思います。私も今から老後は何して過ごそうかと考えています。みなさんは趣味や特技を持っていますから、それらを活かして人とつながり色んな活動をしてみてください。卒業研究・設計で練習した思考力が役に立ちます。

4月からの就職先、進学先がみなさんの新たなスタートです。高専で学んだことを活かして色んなことにチャレンジしてください。そして、高専祭の時やもしくはリクルーターとして、近況報告をしてくれると嬉しいですよ。辛いことがあったら相談しに来てください。周りにはたくさんあなたの味方がいますよ、どんどん頼ってください。また、みなさんは高専OB・OGになります。現役生の力になってくださいね。

みなさんと過ごした2年間、とても充実していました。ありがとうございました。

# 5年間を振り返って -呉高専日誌より-

平成26年4月30日

## 1年建築学科のロング・ホームルーム (LHR)

建築学科1学年担任 赤池 祐次

1年生から3年生は、毎週水曜日の6時限目にクラス活動の時間としてLHRがあります。クラスごとにレクリエーションや学校行事の準備に使われますが、今回(4/30)の1年建築学科のLHRは「呉高専とその周辺の散策」をしました。ただ歩くだけではつまらないので、事前に用意した地図に書かれた問題に答える「ウォークラリー」形式です。



- 班ごとに分かれて、
- ① 呉高専の地盤は海拔( )m
  - ② 「阿賀」の語源は万葉集に登場する地名( )であるといわれている
  - ③ 呉高専郵便ポストの最後の収集時間は( )時
  - ④ 呉高専プール横にある公園の名前は( )

などの、地図に指定してある番号の所に行けば答えられるクイズをしてもらいました。少し時間が足りなかったかもしれませんが、呉高専とその周辺に親しみを感じてもらえたらなあとと思います。

平成28年10月4日

## 建築学科3年 台湾研修旅行

建築学科3年 森木みずうみ、平田ひかる



9月19日(月)  
朝7時に広島空港に集合してみんなで台湾へ出発。台北市内に到着してからすぐ故宮博物院に向かいました。ここでは、台湾の歴史を学び、次は忠烈祠。憲兵の交代式を見学しましたが、日本にはないような雰囲気でした。

9月20日(火)  
この日は国立中央大学を訪問し施設の見学をしました。大学生と一緒に昼食弁当を食べ、みんなで台北101まで移動、一緒に市内の見学をしてから士林夜市で別れました。観光客も多かったですね。台湾は日本より物価が安いと感じました。

9月21日(水)  
朝はホテルの宴会場で日台交流協会の方

による講演会がありました。ご飯を食べてから中正記念堂の訪問です。買い物も、その後の「千と千尋の神隠し」の舞台であった九份地区では、観光気分を満喫しました。

9月22日(木)

帰る日です。朝、ホテルをチェックアウトし、博愛地区まで移動しました。昼食は小籠包。蒸し餃子も食べました！桃園空港に着いて出国審査など手続きを終えてからしばらく自由行動。帰りの広島空港ではもちろん入国審査です。税関チェックもすべて終わり、帰る前は空港ロビーに機械工学科と建築学科のみんなが集まって解散式を行いました。

日本と違う文化や言葉の壁に少しとまどいましたが、海外ならではのことをたくさん体験することができました。とても充実した3泊4日でした。



9月19日(月)から22日(木)まで台湾海外研修旅行に行きました。

平成30年4月25日

## 建築学科棟1階に「キャラクターかさかけ」を設置！

建築学科5年 安藤 誠人



建築学科棟1階建築学科5年教室の前に「キャラクターかさかけ」を設置しました。

これは昨年度、建築学科4年の間瀬研究室のゼミナールの授業で制作したもので、「学校に設置する楽しい家具デザイン」というコンセプトのもと、ゼミナール生が工夫を凝らしデザインして完成させました。

制作には3DCADとCNCマシンを使用しました。曲面のデザインや、木材のカットには不可欠の道具です。

これからの季節、雨の日も多くなりますが、これまで乱雑に転がっていた傘も、このかさかけを使えば雨の日もちょっと楽しみになることを期待しています。



また、イベント等で呉高専を訪れる皆さんにも喜んでつかってもらいたいです。

平成30年5月9日

## 「風の街 みやびら」に見学にいきました

建築学科5年 林 佳一郎



5月9日、ゼミ活動の一環として広島県庄原市にある「風の街 みやびら」に見学に行きました。

「風の街 みやびら」は、様々なサービスを備えた福祉施設で医療福祉建築賞(2016)、日本建築学会作品選奨(2017)を受賞しています。

見学していく中で設計者の細かい工夫や利用者への配慮を発見しました。

わからないところは質問すると施設の方が丁寧に説明してくれました。

限られた時間の中で貴重な体験をさせていただきました。

この体験を私たちのテーマである医療福祉の設計・研究に活かしていきたいです。ありがとうございました。

# 専攻科



## 修了生のみなさんへ

専攻科長補 上寺 哲也

平成30年度修了生のみなさん、ご修了おめでとうございます。

本科と専攻科を合わせて7年間という長い高専生活を送り修了の日を迎えられたことは、皆さんや保護者の方々にとって大変喜ばしいことと、心からお祝いを申し上げます。

皆さんは、プロジェクトデザイン工学専攻に改組されてから2回目の修了生になります。改組前に比べ、時代に即した新しい取り組みが多数実施され、より充実した学生生活を送れたのではないのでしょうか。しかし、実施年数が浅く成熟していない取り組みもあったと感じており、修了生の皆さんには多くの苦勞をかけたのではないかと授業担当者および専攻科長補として反省しております。

思い返せば、修了生の皆さんが7年間の呉高専在学中に、様々な教育改革が行われました。入学時の平成24年に始まった1年生の『技術者入門』では、「高専での勉強の仕方」や「これから高専で学ぶ事」・「世界の中での日本の立ち位置」等を学ぶ事が出来る様に、多種多様な講義や実習・演習を行いました。

この授業では1年生の時に、長い高専生活での目的や目標を知ってもらい、「授業を受ける意味」を理解して学生生活に取り組んでもらいたいとの思いがありました。

修了生の皆さん、7年間の在学中は目的・目標を見失わず生活できたでしょうか？『技術者入門』が少しでも助けになれば幸いです。

また3年生(平成26年)の時には、本校創立50周年記念行事とし

て『体育祭』が復活しました。学科対抗で行われる体育祭では、(良い意味での)上下関係構築や、短い時間でも一生懸命に競技や応援に「燃える」事を期待して開催されました。平成30年度で復活第5回を迎える事が出来たので、今後も呉高専の名物行事として続いていく事でしょう。

さらに、4年生(平成27年)の時に学科学年横断型授業である『インキュベーションワーク』が始まりました。

「他学科との協業」や「地域貢献」をキーワードに、学生がプロジェクトテーマを設定し、メンバーを募集・活動計画立案・実行する事を目標としています。修了生の皆さんが高学年の時にスタートしたため、いきなり「低学年の学生達をまとめるリーダーシップ」を求められ、苦勞されたのではないのでしょうか。また、専攻科の『プロジェクトデザイン工学演習』につながる講義に位置付けられており、本授業の経験が活かされたのではないのでしょうか。

なお、私は幸運にも『技術者入門』・『体育祭』・『インキュベーションワーク』の立ち上げから関わる事が出来ました。大変ありがたく思う反面、もっと良くする事が出来るのではないかと日々自問しております。しかし、呉高専内での自問自答だけでは限界がありますので、修了生の皆さんにおかれましては、今後はOBOGとして、呉高専の活動へのご指導・ご助言をよろしく願います。

今後の皆さんのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

# 2年間を振り返って -呉高専日誌より-

平成29年10月12日

## 電気情報系専攻科生の提案が総務省支援事業「高専ワイヤレスIoTコンテスト」に採択される

先端電磁波システム研究室

専攻科1年の熊原宏征君提案による「公共放送波利用レーダ方式による土砂災害早期予知システム」が標記コンテストに採択されました。

このコンテストはワイヤレスIoT技術の実証を念頭に、さまざまな分野や業種、地域等を巻き込み、具体的なビジネスや公共サービスに繋がる提案を高専学生から募るものです。

第一次審査を通過した課題は、評価委員会によるweb会議システムを通して面接され、結果として全国から応募された26件の提案中、採択案件6件と厳しい審査の中、熊原君はこの2次審査もパスしました。

提案内容は、同君が本科4年時にインキュベーションワークと呼ばれる創造演習の授業で自ら発案したテーマを研究に発展させたもので、これまで国内口頭発表論文7件、査読付国際会議論文6件(含投稿中)、査読付論文誌投稿1件と着実に成果を上げてきたものです。

今後はNTTデータからのサポーターや地域コンサルタント企業、産業技術総合研究所と連携し300万円以下の支援費用を受けながら、本プロジェクトを推進して行くことになります。

地域住民の安心/安全に向けた、同研究室による地域貢献研究の進展が期待されます。



平成30年11月9日

## 第5回オーガナイズド・テラメカニクス・ワークショップに研究発表

専攻科プロジェクト工学専攻2年 龍尾 一海

11月8日、9日に横浜国立大学みなとみらいキャンパスで行われた第5回オーガナイズド・テラメカニクス・ワークショップにて研究発表を行いました。

私が発表した題目は「海面埋立型廃棄物処分場の底面遮水機能に及ぼす基礎杭打設の影響」です。

発表と質疑応答を終えて、今後の研究の課題が見えてきました。また、他の参加者の方の発表を聞く中で、自分の研究の参考となるような発表が多くあり、とても勉強になりました。

この研究発表会で得られたことを活かして今後とも研究に励んでいきたいと思っております。



平成30年10月26日

## 専攻科2年 国際会議ISAIA2018で研究発表

専攻科プロジェクトデザイン工学専攻2年 澤田 勇志

10月23～26日に韓国・平昌で開催されたISAIA2018(第12回アジア建築交流国際シンポジウム)で発表してきました。採択された研究テーマは「呉市中央地域における都市計画公園の形成過程に関する研究」です。

海外渡航は特別見学旅行の台湾以来で、言葉の通じない外国での学会発表は緊張もありましたが、指導教員の安先生のおかげで安心して発表に臨むことができました。

練習を重ね発表はスムーズに終わりましたが、質疑応答は戸惑ってしまうところもあり、英語力の重要性を実感しました。これを機に今後の語学学習や研究のモチベーションにもつなげることができ、これからは国際的に活躍できるよう努力していきたいと思っております。

応援とご指導くださいました多くの方々に御礼申し上げます。



平成30年12月17日

## 専攻科生(環境都市系)が優秀講演者として表彰されました！

環境都市工学分野 堀口 至



私の研究室から、専攻科1年の鍋島美咲さんが「ハイブリッドポーラスコンクリートの揚水性能に及ぼす締固めの影響」というタイトルで研究発表を行いました。

土木学会全国大会では「土木学会年次学術講演会優秀講演者表彰」という制度があり、優れた講演を行った若手研究者、技術者が表彰されます。

今回は約3,700件の発表の中で、293名の発表者が優秀講演者として選ばれましたが、高専生で選ばれたのはわずか8名のみで、鍋島さんもそのうちの一人です。

鍋島さんは今年5月に行われた土木学会中国支部研究発表会でも、優秀発表者として表彰されています。

今回の受賞を励みに、これからも研究を頑張っていってください！

去る2018年8月29日～31日に、北海道大学で平成30年度土木学会全国大会第73回年次学術講演会が開催されました。



# 進路速報

## 専攻科

専攻科の修了生は18名で、進路状況は就職13名(民間企業11名、公務員2名)、大学院進学4名、未定1名です。就職先は、日立製作所、パナソニック、マツダ(2名)、神鋼環境ソリューション、ガイアックス、五洋建設、ショーボンド建設、意匠計画、プランテック総合計画事務所、東栄住宅、広島県庁、呉市役所です。また、進学先は、東北大学大学院(2名)、京都工芸繊維大学大学院、豊橋技術科学大学大学院となっています。

## 機械工学科

機械工学科の進路状況は、学生数35名に対して進学18名(51%)、就職17名(49%)と初めて進学率が就職率を上回ったのが大きな特徴です。進学率はこれまで30~40%でしたが、専攻科の改組もあり大幅に増えました。

進学先は専攻科が14名で昨年とほぼ同数でした。国立大編入生は4名で、豊橋技科大2名、九州大、茨城大に各1名が進学し、全員が第一志望です。一方、就職先は、サントリ-4名、マツダ2名で、出光興産・ミツヨ・NTTファシリティーズ中国・旭化成・ディスコ・日東電工・中電・JSW・テルモ・村田機械・花王に各1名でした。ほぼ全員が第一希望に就職できました。

## 電気情報工学科

電気情報工学科の進路状況は、学生数37名に対して就職30名(81%)、進学7名(19%)で、今年度は進学が少ない学年になりました。主な就職先の業種は、電機関連が8名(パナソニック、ソニー、三菱電機関連など)、情報・通信が7名(NTTネオメイトなど)と多くなりました。エネルギー分野は4名(中部電力、関西電力など)、精密が3名(ニコン、キャノン、エプソン)、化学が2名(東レ、旭化成)でした。今年も企業の採用意欲は高く、その要望に応えきれない状況です。進学先は本校専攻科が4名、筑波大、岡大がそれぞれ1名でした。

## 環境都市工学科

本学科では、本科卒業予定者42名のうち、就職が28名(67%)、進学が14名(33%)でした。就職先は、国土交通省、広島県、広島市、などの公務員に8名、電力やJRやガスや道路などの公益企業14名、大成建設などの建設系企業2名、NEXCOエンジニアリング中国などの建設コンサルタント2名、富士通などその他の企業2名で、ほぼ例年通りの傾向でした。

進学先は、東京工業大学1名、九州大学1名、熊本大学1名、長岡技術科学大学1名、本校専攻科10名でした。公務員の内定は遅いもので11月でしたが、今年度は売り手市場がより一層顕著になり、民間志望者は夏過ぎには全員内定しました。

## 建築学科

建築学科の進路状況は、学生数43人に対して就職が30人(70%)、進学が13人(30%)であって、例年と比べて進学学生がやや多い年になりました。就職先は、清水建設、竹中工務店、フジタなどのゼネコンに10名、建築設備系企業に2名、電力や鉄道などインフラ系企業に6名、大手メーカーの建築・施設部門に3名などでした。

建築業界の求人意欲は男女を問わず非常に高く、今年もその要望に応えきれないほどでした。進学先は本校専攻科を始め、東京大学、北海道大学、京都工芸繊維大学、横浜国立大学などでした。

■表1 平成30年度専攻科修了生就職予定先一覧

<H31年1月現在>

企業名
呉市役所
広島県庁
ガイアックス
株式会社意匠計画
株式会社神鋼環境ソリューション
株式会社東栄住宅
株式会社日立製作所
株式会社プランテック総合計画事務所
五洋建設株式会社
ショーボンド建設株式会社
パナソニック株式会社アプライアンス社
マツダ株式会社

(50音順)

■表2 平成30年度専攻科修了生進学予定先一覧

<H31年1月現在>

学校名
京都工芸繊維大学大学院
東北大学大学院
豊橋技術科学大学大学院

(50音順)

■表3 平成30年度本科卒業生進学予定先一覧

<H31年1月現在>

学科名 \ 学校名	機械工学科	電気情報工学科	環境都市工学科	建築学科
呉工業高等専門学校 専攻科	○	○	○	○
茨城大学	○			
岡山大学		○		
九州大学	○			
京都工芸繊維大学				○
熊本大学			○	
筑波大学		○		
東京工業大学			○	
東京大学				○
豊橋技術科学大学	○			
長岡技術科学大学			○	
北海道大学				○
三重大学				○
横浜国立大学				○

(50音順)

■ 表4 平成30年度本科卒業生進学予定先一覧 <H31年1月現在>

企業名	学科名	機械工学科	電気情報工学科	環境都市工学科	建築学科
国土交通省中国整備局				○	
国立印刷局				○	
広島県庁				○	
広島市役所				○	○
JFEシビル株式会社					○
JRC特機株式会社			○		
NEXCO西日本ファシリティーズ株式会社					○
NTTインフラネット株式会社				○	
旭化成株式会社	○	○			
出光興産株式会社	○				
大阪ガス株式会社				○	○
花王株式会社	○				
鹿島クレス株式会社					○
株式会社LIFE MERKET				○	
株式会社NTTファシリティーズ中国	○				
株式会社OGCTS			○		
株式会社あい設計					○
株式会社アキュラホーム					○
株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー			○		
株式会社エヌ・ティ・ティ ネオメイト			○		
株式会社竹中工務店					○
株式会社中電工			○		
株式会社ディスコ	○				○
株式会社ニコン			○		
株式会社日本製鋼所	○				
株式会社フィックスターズ			○		
株式会社フジタ					○
株式会社富士通コンピュータテクノロジーズ			○		
株式会社フリーダム			○		
株式会社メンバーズ			○		
関西電力株式会社			○	○	○
キヤノン株式会社			○		
五洋建設株式会社					○
三機工業株式会社					○
サントリースピリッツ株式会社	○				
サントリービール株式会社	○				
サントリープロダクツ株式会社	○				
清水建設株式会社					○
セイコーエプソン株式会社			○		

企業名	学科名	機械工学科	電気情報工学科	環境都市工学科	建築学科
ソニーエンジニアリング株式会社			○		
大成建設株式会社				○	
大和ハウス株式会社					○
中国高圧コンクリート株式会社				○	
中国電力株式会社	○	○	○		
中電技術コンサルタント株式会社					○
中部電力株式会社			○		
テルモ株式会社	○				
電源開発株式会社				○	
テンパール工業株式会社			○		
東海旅客鉄道株式会社				○	
東京ガス株式会社				○	
東京水道サービス株式会社				○	
東芝ITサービス株式会社			○		
東レ株式会社			○		
トランスコスモス株式会社					○
中村外二工務店					○
西日本高速道路メンテナンス中国株式会社				○	
西日本高速道路株式会社				○	○
西日本高速道路エンジニアリング中国株式会社				○	
西日本旅客鉄道株式会社				○	○
西松建設株式会社					○
日鋼設計株式会社			○		
日東電工株式会社	○				
日本貨物鉄道株式会社			○		
パナソニック株式会社 オートモーティブ&インダストリアルシステムズ社			○		
パナソニック システムソリューションズ ジャパン株式会社			○		
日立建機株式会社			○		
富士通株式会社				○	
富士電機株式会社			○		
マツダ株式会社	○				
三井住友建設株式会社					○
ミットヨ株式会社	○				
三菱電機エンジニアリング株式会社			○		
三菱電機システムサービス株式会社			○		
三菱電機ビルテクノサービス株式会社			○		
村田機械株式会社	○				
レールテック株式会社				○	

(50音順)

# 「2018年度の呉高専日誌から」

## 教育・研究

### 呉市天応町「足湯ボランティア」に参加しました

平成30年8月11日 呉高専日誌

環境都市工学科3年 武富 智史



8月11日に静岡県ボランティアセンターの方が呉市天応町で行なっている足湯のボランティアに学生3人と保護者1人が参加しました。

避難生活で疲労が溜まっている方も多かったため足湯に浸かるだけでなく、手のマッサージをしたりして色々お話もさせていただきました。

「ありがとう」「気持ちよかったです」などの言葉を足湯に入った方からいただいととても嬉しくやりのいい活動がありました。



### 日本設計工学会・学生優秀発表賞を受賞

平成30年9月29日 呉高専日誌

機械工学分野 野村 高広



9月28日、29日に鳥取で開催された日本設計工学会の2018年度秋季大会に参加しました。

初日の技術交流会の席において、5月に東京大学で開催された春季大会講演会での学生優秀発表賞の授賞式が開催され、専攻科2年の木村祐也君が受賞に選ばれる運びとなりました。

翌日に、2018年度秋季大会研究発表講演会が鳥取大学で行われました。講演会では、専攻科1年の三京拓弥君により研究発表を行い、活発な質疑応答がなされました。

両学生とも『渦』により回転駆動する珍しい風車の基本特性について風洞装置を用いて日々研究に取り組んでいます。

今後も彼らをはじめとする研究室学生の成長に期待したいと思います。



### 英語弁論大会で1位、2位に入賞しました

平成30年10月28日 呉高専日誌

人文社会系分野 富村 憲貴



第34回中国地区高専英語弁論大会で、本校学生が1位、2位に入賞しました。

本大会は10月27日(土)、28日(日)に、周南市学び・交流プラザで開催され、電気情報工学科3年の日野萌咲さんが暗唱部門で優勝、機械工学科2年の津浦真実さんがシングルプレゼンテーション部門で2位を獲得しました。また、シェイクスピア作品を暗唱した、電気情報工学科3年の岩城昂琉君も、上位と僅差の5位となりました。

3人とも、豪雨災害を経ながらも重ねた、数か月にわたる練習の成果を十二分に発揮しました。

津浦さんは、2019年1月に開催される、全国英語プレゼンテーションコンテストへの出場権を獲得しました。さらに磨きをかけた発表を期待しています。

### 神田研究室、国土交通省中国運輸局長から感謝状を贈呈

平成30年10月30日 呉高専日誌

環境都市工学分野 神田 佑亮

平成30年7月豪雨では、広島県道路などの道路網、JRなどの鉄道網が寸断され、呉は陸の孤島となり、またその後の渋滞も酷い日が続きました。

これに対し、研究室を挙げてあらゆる対策を提案、また実行に移してきました。

特に、呉市役所ホームページでの情報発信支援、バス所要実績情報の発信、各駅停車型路線バスの位置情報発信システムの構築と運用では、研究室の学生や3年生の学生達が随分と活躍しました。

10月30日に、国土交通省中国運輸局長より感謝状を頂戴することとなりました。

今回の災害対応で携わった学生の皆さんを含め、研究室メンバー一同、大変嬉しく思っております。



# 「2018年度の呉高专日誌から」

## インキュベーションワーク

### 呉中通り2丁目に「時計ベンチ」が設置されました！

平成30年5月2日 呉高专日誌

建築学科5年 田中 瑞希、前田 大貴



昨年度のインキュベーションワークでデザイン・製作した「時計ベンチ」を呉市中通り2丁目に設置しました。

中国新聞でも紹介されました。昨年設置されたタマゴベンチの真向かいにあります。

時計ベンチ、1つ目は「WATCH(ウォッチ)」です。

モチーフは腕時計で、女性が一人でも動かせるので、様々な置き方ができます。アーチに足を添わせて座ったり、またがって座ったりすることもできます。

2つ目は「MOVEMENT(ムーブメント)」です。

モチーフは時計の内部構造で、大小の歯車を重ねて仕上げました。歯車や座面の文字盤などが特徴的で「WATCH」とあわせてテーブルとしても使えます。

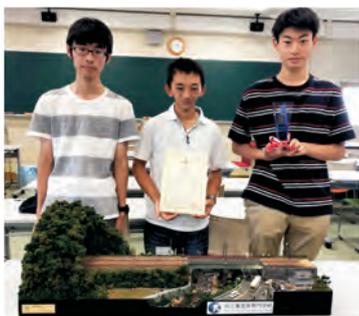
ご協力いただいた梶本時計店の皆さん、指導をいただいた先生方、インキュベーションのチームの皆さん、ありがとうございました！



### 全国高等学校鉄道模型コンテスト 優秀賞受賞！！

平成30年8月5日 呉高专日誌

機械工学科3年 寺元 貴哉



8月4日、5日に東京ビッグサイトで開催された「第10回全国高等学校鉄道模型コンテスト」へ参加しました。自分の他に、電気情報工学科3年の大里翼君と環境都市工学科3年の武富智史君が参加しました。

このコンテストは全国から約140校が参加し、鉄道ジオラマの製作技術などを競う大会で、昨年に引き続き参加しました。コンテスト当日は沢山の方々が来場されて、会場はとても賑わいました。

今年は、昨年努力賞という反省を生かし、半年間掛けて製作した自信作でした。電気情報工学科の大里君も今年は製作に

参加してくれた事もあり、電飾や信号も自作し、自分たちも納得できる作品となりました。

その結果、見事優秀賞(2位相当)を獲得することが出来ました。

来年、自分たちは4年生になるためコンテストには参加できませんが、この技術を後輩にしっかりと引き継ぎ、来年以降も頑張ってもらいたいと思います。



### 「タイムトラベルマップin呉」全国展開へ

平成30年11月1日 呉高专日誌

環境都市工学科4年 大林優介、宮永渚生、雪丸秀真



昔の呉を感じながら散歩してもらうための「タイムトラベルマップin呉」が、呉市以外でも広く配布されることになりました。

昨年度マップを完成させ、今年度のインキュベーションでは、電気情報工学科4年の東谷圭祐、宮崎俊輔、村松聖俊、芳野岳君が、ホームページを充実させて、スマホを片手に、昔の絵葉書と現在の写真を見ながら、昔の呉を感じながら散歩できるようにしました。マップもホームページも好評です。

さらに呉市観光振興課や呉観光協会のご協力により、マップを広く配布していただけることになりました。呉観光協会のホームページでもご紹介いただいています。

機械工学科3年の佐藤颯哉、田村晴海君には、新たなマップを作成してもらっています。しかし、まずは、現在のマップとホームページをご覧ください。

・タイムトラベル・ギャラリーin呉  
<https://taichi44122278963.wixsite.com/timetravel-in-kure>

### デザコン構造部門、優秀賞受賞

平成30年11月1日 呉高专日誌

建築学科5年 秋光 大地、建築学科4年 田中 歩希

11/10(土)、11(日)の全国高等専門学校デザインコンペティション2018 in 北海道の構造デザイン部門に、「IW「デザコン構造部門」チームとして参加しました。

この部門は銅線とはんだで作った橋の性能を競います。直近3作品が全て賞を受賞しているため、多くの方から注目されました。

作品名は『思伝一線』です。日本刀をモチーフとし、チームが数年かけて編み出した工法やメンバーの努力と思いを橋にまっすぐ注ぎ込みました。

作品重量は362.9gと、2番目より70g以上

も軽い最軽量！

実際に45kgのおもりを載せて5kgの砲丸を転がします。全ての荷重を持ち堪えた直後に崩壊しました。間違いなく会場が一番盛り上がった瞬間です(笑)。

結果は59作品中2位(優秀賞)！

最優秀賞は逃しましたが、努力が報われたのでとても満足です。

来年は素材が変更されますが、チーム一丸となって最優秀賞を目指します！



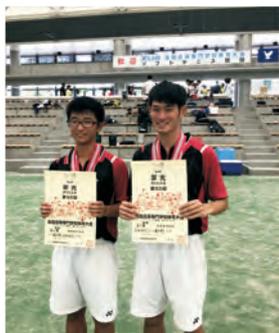
# 「2018年度の呉高専日誌から」

## クラブ活動

### ソフトテニス部 全国高専体育大会 男子個人戦 優勝！

平成30年8月30日 呉高専日誌

ソフトテニス部顧問 井上 浩孝



8月29日(水)、30日(木)パークドーム熊本で開催の第53回全国高専体育大会の個人戦に、本校ソフトテニス部から小川連太郎(環境都市工学科4年)・古谷和己(電気情報工学科4年)ペア、藤原大雅(環境都市工学科3年)・益田開登(機械工学科3年)ペアが出場し、小川・古谷ペアが優勝しました！  
この大会は、各地区大会で上位に進出した25ペアによるトーナメントです。

藤原・益田ペアは1回戦で鶴岡高専のペアと対戦し4-2で勝ちましたが、

2回戦で石川高専のペアに3-4で惜敗しました。  
第2シードで出場した小川・古谷ペアは2回戦で弓削商船高専のペアに4-3で勝ち、準々決勝で鶴岡高専のペアに4-2で勝ち、準決勝で長野高専のペアに4-3で勝ち、決勝で松江高専のペアに4-3で勝ち、優勝しました。

復興道半ばの広島県呉市で7月は練習ができず、8月に合宿を2度実施して臨んだ全国大会で22年ぶりの優勝、感慨もひとしおです。



### 高専ロボットコンテスト(NHKロボコン) 全国大会 に出場決定

平成30年10月21日 呉高専日誌

ロボット制作部 中村 太一(機械工学科4年)



呉高専ロボット制作部は10月21日に島根県鹿島総合体育館で開催された高専ロボコン2018中国地区大会に参加しました。

今年のテーマは「Bottle-Flip Cafe」で、ロボットたちのボトルフリップによる可憐な戦いが繰り広げられました。

呉高専ロボコン部では呉A「Vic鳥」と呉B「Rebloom」の2チームが出場しました。結果としては、呉Aは決勝トーナメント準決勝で敗退、呉Bは予選リーグを1勝1敗で敗退となりましたが、呉Aチームが中国地区推薦枠として全国大会に出場することになりました。

呉Aのメンバーは11月25日(日)に東京の両国国技館で開催される全国大会に出場します。全国大会までロボット制作部一丸となって取り組み、全国優勝を勝ち取りたいと思います。

最後になりましたが、当日応援に来てくださった呉高専関係者の方々、保護者の皆様、OBの方々にはこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

### 演劇部 第58回広島県高等学校総合演劇大会で 特別賞・尾三地区高等学校演劇連盟会長賞 受賞

平成30年11月11日 呉高専日誌

演劇部 西口 拓未(電気情報工学科1年)

演劇部は11月10、11日に尾道のしまなみ交流館テアトロシェルネで開催された第58回広島県高等学校総合演劇大会に出場しました。

県大会は各地区選出の13校が競い合います。演劇部は県大会初出場でわからないことも多かったのですが、しっかり上演しることができました。一部、台本に変更を加え、呉地区大会とは変えた部分も好評のようでした。

審査時間に行われる各校合同「交流会」では「高専あるある」を披露し、高専がどんな学校か他校の人達にも知ってもらえたと思います。また、広島、福山、尾三地区の素晴らしい劇も見ることができとても勉強になりました。この経験を生かし、今後も更によりいい劇を作っていきたいです。審査の結果、呉高専「Nowhere」が特別賞・尾三地区高等学校演劇連盟会長賞を受賞しました。県大会初出場でまさか受賞できるなんて思ってもいなかったので、とても嬉しかったです。

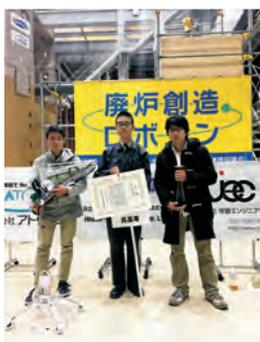
応援して下さった皆様ありがとうございました。



### 第3回廃炉創造ロボコン 福島県知事賞受賞！！

平成30年12月15日 呉高専日誌

ロボット制作部 元木 太河、田中 光二郎(機械工学科5年)、山崎 隆(電気情報工学科5年)



12月14、15日に福島県楡葉遠隔技術開発センターで開催された文科省等主催の第3回廃炉ロボコンに、ロボット制作部の有志3名で出場しました。

競技課題は「直径240mmの土管を潜り抜け、その先にある500mm四方の穴の下3.2mの位置においてあるテニスボール、ピン球、ゴルフボールの3種類各3個、計9個のボールを回収してくる」というものでした。我々はベルトを使った無限軌道(いわゆるキャタピラー)と、ダンブカーのような物体の運搬機構、クレーンゲームと傘を融合したアーム、の3つの要素を組み合わせたロボットを製作しました。

本大会では原発内部での作業を模擬しているため、ロボットを直接見ながら操作することができないようになっており、非常に課題達成が困難になっていました。

我々はボールを計3つ回収したところで、競技時間終了となりましたが、ユニークな回収機構などが評価され、福島県知事賞を受賞しました。

# 「2018年度の呉高専日誌から」

## イベント等

### 第14回呉高専文化行事が呉市文化ホールで開催されました

平成30年6月6日 呉高専日誌

学生会広報委員長 進藤 ころこ（環境都市工学科4年）

今年の文化行事は2人のヴァイオリニストと1人のピアニストから構成されるユニット TSUKEMENのコンサートでした。

グループ名はメンバーご家族の「イケメンというのはい過ぎだ」とのご意見が元にあるそうです。このユーモラスなエピソードと異なり、舞台上に登場されたTSUKEMENの皆さんはイケメンで格好よかったです。

ピアノ、ヴァイオリンとビオラの音がとてもきれいで、午前の英語試験の疲れが吹き飛びました。

演奏中に客席に下りてきてくれたり、客席のみんなも演奏に参加できたりと、とても楽しく、とても素敵で、とても短く感じた90分を過ごすことができました。

機会があればTSUKEMENのコンサートにまた行きたいです。

末筆になりましたが、文化行事開催にあたりご支援いただきました後援会、同窓会、学校関係者の方々、ホールに足を運んでいただいた来賓各位、保護者や多くの方々へ深く感謝いたします。有難うございました。



### 第1回学校見学会

平成30年9月8日 呉高専日誌

教務主事補 河村 進一



9月8日(土)に第1回学校見学会を開催しました。7月の豪雨の影響で当初の予定より1ヶ月遅れで、呉線も代行バスでの運行、当日もあいにくの雨でしたが、中学生と保護者合わせて519人の来校がありました。

まず全体説明として、校長から挨拶と呉高専の紹介があり、その後、キャンパスツアーで校内を巡回して、各学科の教育・研究内容などの紹介を行いました。

各学科の説明やインキュベーションワークの活動紹介などに多くの学生が協力してくれて、中学生に呉高専の良いところを一生懸命アピールしてくれていました。

図書館棟の学校生活に関する相談コーナーでは、特別推薦に該当するかなど個別の相談も受けました。学生食堂では多くの参加者の皆さんに学食体験していただきました。

高専は中学や高校とちょっと違うユニークな学校ですが、技術者を目指すにはとっても良いところですよ。

ぜひ進路選択の一つとして考えていただければと思います。

### 高専祭が開催されました

平成30年11月4日 呉高専日誌

高専祭実行委員 向井 明都（環境都市工学科4年）



第54回高専祭が11月3日(土)、11月4日(日)の2日間を通して開催されました。

今年は7月に西日本を中心とした豪雨災害が発生しましたが、例年通り無事に高専祭を行うことができました。

特に当日は気持ちの良い秋晴れの中で、来て下さった来場者の方も学生自身も楽しい時間を過ごすことができましたと思います。

高専祭は学生が中心となって作り上げる高専の中でも最も大きなイベントです。来て下さった方に喜んでいただけるように、ステージ企画や部活動・インキュベーションワークの展示等を行います。

夜にはDANCE PARTYを開催して、体育館をクラブへと変えてまいります。さらに、最後には花火を打ち上げて、高専祭を締めくくります。

これ以外にも高専祭には多くの魅力が詰まっています。ぜひ1度訪れてみてください。

※高専祭の収益の半分を平成30年7月豪雨災害支援金として呉市へ寄附しました。



### 第6回「びっくりワクワククリスマスサイエンスショー」を開催しました

平成30年12月9日 呉高専日誌

自然科学系分野 赤池 祐次



今年も「びっくりワクワククリスマスサイエンスショー」を開催しました。

インキュベーションワークの発表の場としてさまざまなブースを開設し、ご来場の方々にはものづくりや体験などを楽しんでもらいました。すぐに整理券がなくなってしまった所もあり申し訳ありません。

また、今回はミニイベント「ドラム缶潰し」「紙は何回まで折れるか」、教員によるさまざまな「ミニセミナー」を開催しました。

当日配布したパンフレットは882部に上りました。

子供達が「楽しかったね」と言いながら

帰っていくのがとても印象的でした。ぜひまた参加して下さい。

ご協力いただいた方々にはこの場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。



# 部活動の成果・受賞実績

## 第54回中国地区高等専門学校体育大会(平成30年7月6日～10日)

(総合・団体)

種目	順位
陸上競技(男子)	4位
陸上競技(女子)	4位
水泳	6位
バレーボール(男子)	3位
テニス(男子)	優勝
剣道(男子)	3位
剣道(女子)	2位
バスケットボール(男子)	2位
バスケットボール(女子)	3位
ソフトテニス(男子)	優勝
卓球(女子)	5位

(個人)

種目・順位	所属・氏名
陸上競技	
男子	
100m 5位	E3 藤川 岳士
" 8位	C2 鳥越 隼斗
200m 2位	E3 藤川 岳士
" 7位	C2 鳥越 隼斗
400m 6位	M3 宇野 綾二
800m 1位	E5 長谷川 甲斐
" 6位	A2 前田 琉亮
1500m 1位	A2 竹添 慧史 <small>※出場録速3000SCで出場</small>
" 7位	C2 国実 雅紀
5000m 2位	A2 竹添 慧史
" 5位	C2 国実 雅紀
110mH 8位	M1 大岡 颯馬
4X100mR 失格	M1 北恵 志童 E3 藤川 岳士 A5 山本 摩生 C2 鳥越 隼斗
4X400mR 2位	M3 宇野 綾二 E3 藤川 岳士 C2 鳥越 隼斗 E5 長谷川 甲斐
走高跳 6位	A4 花岡 慶汰
三段跳 8位	C4 宇根本 一輝
砲丸投 6位	C4 藤井 裕大
円盤投 5位	C4 藤井 裕大
" 7位	E5 塔迫 来
やり投 4位	C5 藤原 陸
" 6位	E5 塔迫 来
女子	
100m 4位	A1 桑野 紗羽
800m 4位	A5 古田 花那
" 5位	A1 桑野 紗羽
砲丸投 7位	A5 古田 花那

種目・順位	所属・氏名	所属・氏名
水泳		
男子自由形50m 6位	M4 北村 貴則	
男子自由形200m 3位	E4 松本 生弥	
男子バタフライ100m 1位	C2 小田 悠人	
男子バタフライ200m 1位	C2 小田 悠人	
男子リレー400m 6位	E4 松本 生弥 C1 爲敷 大星 M4 北村 貴則 C2 小田 悠人	
女子自由形50m 4位	A1 庄野 美聡	
" 7位	A2 石田 冬美	
女子自由形100m 4位	A1 庄野 美聡	
" 8位	A2 石田 冬美	
女子背泳ぎ100m 5位	A2 岡本 夏海	
女子平泳ぎ100m 5位	A2 岡本 夏海	
テニス		
男子シングルス 2位	C2 小村 亮世	
男子ダブルス 2位	C5 小村 創史 C2 小村 亮世	
剣道		
女子個人戦 2位	C4 進藤 ころこ <small>※出場録速</small>	
ソフトテニス		
男子ダブルス 1位	C4 小川 連太郎 E4 古谷 和己	
" 3位	C3 藤原 大雅 M3 益田 開登	
女子ダブルス 1位	C5 山本 桃加 A5 森木 みずうみ	

赤字は全国大会出場種目

## 第100回全国高等学校野球選手権広島大会(平成30年7月17日)

一回戦 呉高専 3-4 尾道東高校

## 第27回西日本地区高等専門学校アーチェリー競技会(平成30年8月27日～8月28日)

(団体)

種目	順位
団体(男子)	優勝

(個人)

種目・順位	所属・氏名
男子	
30m・50mの部 1位	A4 平田 雄基
" 2位	M5 新吉 喬彬
" 3位	E5 梶 真央
女子	
30m・50mの部 2位	C4 金岡 沙映
30mダブル 2位	C1 尼崎 杏奈
" 3位	E1 栗栖 祐子

## 第53回全国高等専門学校体育大会(平成30年8月18日～9月2日)

(団体)

種目	順位
ソフトテニス	3位
テニス	予選敗退

(個人)

種目・順位	所属・氏名
陸上競技	
200m 予選落ち	E3 藤川 岳士
800m 6位	E5 長谷川 甲斐
3000sc 4位	A2 竹添 慧史
5000m 7位	A2 竹添 慧史
4×400mR 予選落ち	M3 宇野 綾二 E3 藤川 岳士 C2 鳥越 隼斗 E5 長谷川 甲斐
水泳	
自由形 200m予選落ち	E4 松本 生弥
バタフライ 100m 2位	C2 小田 悠人
バタフライ 200m 2位	C2 小田 悠人

種目・順位	所属・氏名	所属・氏名
ソフトテニス		
男子ダブルス 優勝	C4 小川 連太郎 E4 古谷 和己	
" 2回戦敗退	C3 藤原 大雅 M3 益田 開登	
女子ダブルス 3位	C5 山本 桃加 A5 森木 みずうみ	
テニス		
男子シングルス 2回戦敗退	C2 小村 亮世	
男子ダブルス 準優勝敗退	C5 小村 創史 C2 小村 亮世	

# 新聞・TVに載った呉高専

- 平成31年2月1日（金）中国新聞「豪雨時の渋滞対策貢献 29の個人・団体表彰 呉市」（呉・東広島版26面：神田教授）
- 平成31年1月15日（火）中国新聞「『復興の力に』新成人誓う 天応 笹酒で住民もてなし」（呉・東広島版16面：環境都市工学科5年学生コメント）
- 平成31年1月15日（火）中国新聞「新成人 共助の志 絆大事にする社会に/若者流出防ぐ政策を」（社会21面：環境都市工学科5年、建築学科5年学生コメント）
- 平成31年1月11日（金）中国新聞「呉高専祭の収益 半分を市に寄付」（呉・東広島版26面）
- 平成31年1月1日（火）月刊くれえばん「呉高専の『地域連携デザイン』No.3」（p42-p45）
- 平成30年12月20日（木）中国新聞「建設業界 教えて「お姉さん」 呉高専で女性向け交流会」（呉・東広島版30面）
- 平成30年12月13日（木）くま経済新聞「JSTの公募研究に採択「広島のコスモの復興」のテーマで」（9面：江口助教）
- 平成30年12月1日（土）月刊くれえばん「呉高専の『地域連携デザイン』No.2」（p28-p31）
- 平成30年11月18日（日）高専ロボコン全国大会 出場ロボットを紹介(NHKEテレ サイエンスZERO「高専ロボコン直前スペシャル」)
- 平成30年11月2日（金）中国新聞「被災地支援の9団体感謝状 中国運輸局」（中国総合22面）
- 平成30年11月1日（木）月刊くれえばん「呉高専の『地域連携デザイン』No.1」（p27-p35）
- 平成30年10月17日（水）中国新聞「呉線 年内に全線復旧へ 呉・竹原で喜びの声 さらなる前倒し注文も」（呉・東広島版30面：建築学科1年学生コメント）
- 平成30年10月11日（木）中国新聞「被災乗り越え全国優勝 呉高専ソフトテニス部」（呉・東広島版30面）
- 平成30年9月4日（火）中国新聞「技術開発など協定 呉医療センターと呉高専」（呉・東広島版22面）
- 平成30年8月28日（火）中国新聞「呉線沿線交通情報を一目で 西日本豪雨 呉高専など産学官開設」（呉・東広島版22面：神田教授）
- 平成30年8月23日（木）豪雨被害の広島へ呉を走る「災害時BRT」とは 通勤2時間超を40分に 命名にある想い(乗り物ニュース・Yahooニュース：神田教授)
- 平成30年8月22日（水）西日本豪雨災害での渋滞緩和に向けた取り組みについてスタジオ出演(RCCラジオ「おひる一な「地域をプラス」」：神田教授)
- 平成30年8月21日（火）中国新聞「代行バス位置ネットに表示 待つストレス大幅減期待」（社会24面：神田教授）
- 平成30年8月17日（金）西日本豪雨災害での渋滞緩和に向けた取り組みについて電話出演(RCCラジオ「本名正憲のおはようラジオ「おはようフォーカス」」：神田教授)
- 平成30年8月4日（土）中国新聞「西日本豪雨災害 芸南賀茂の現場から 学生と渋滞緩和策探る」（呉・東広島版24面：神田教授）
- 平成30年8月3日（金）中国新聞「JR代行バス 通勤時 呉→坂30分 連絡切り替え 坂→呉 渋滞で58分」（呉・東広島版26面：神田教授）
- 平成30年8月1日（水）西日本豪雨災害での神田研究室の取り組みを紹介(NHK広島放送局「お好みワイドひろしま」)
- 平成30年8月1日（水）中国新聞 ファミリーくれ「来たれ!!阿賀のQ&A」(2面:AGain、山岡教授)
- 平成30年7月27日（金）中国新聞SELECT「想 3Dプリンター夢創り」(1面：山脇教授)
- 平成30年7月14日（土）中国新聞「災害ボランティア始動 世羅町内 高専生兄弟が土砂搬出に汗」(尾三版27面)
- 平成30年7月18日（水）中国新聞「特例バス・フェリー始動 呉-広島 利用 想定下回る」(社会32面：神田教授)
- 平成30年7月16日（月）環境都市工学科3年 大迫君の豪雨災害ボランティア活動の様子を紹介(広島ホームテレビ「みみよりライブ 5up!」)
- 平成30年7月5日（木）朝日新聞「百夏ヒーロー 大迫雄馬主将(呉高専)「一勝」兄から継いだ夢」(広島版27面)
- 平成30年6月24日（日）中国新聞「呉高専球児にプロの技伝授 元カープ小林さん特別コーチ」（呉・東広島版32面）
- 平成30年6月12日（火）中国新聞「旧海軍地下壕を調査 呉高専・宮原中生 来月結果報告へ」（呉・東広島版26面）
- 平成30年5月26日（土）毎日新聞「『形が残らぬ表現』どう残す?」（文化14面：Lifespan出演：富村准教授）
- 平成30年5月14日（月）中国新聞「海友舎内に移築の可能性 呉高専の教員と学生 新史料分析」（呉・東広島版16面）
- 平成30年5月5日（土）中国新聞「東京五輪後の街探る」（呉・東広島版18面）
- 平成30年4月21日（土）中国新聞「時計モチーフのユニークベンチ 高専生、3脚製作」（呉・東広島版24面）
- 平成30年4月20日（金）朝日新聞「呉のツバキで酒造り 呉高専、市花から酵母培養」（広島23面）
- 平成30年4月14日（土）中国新聞「本地正輝の小説に光 呉ゆかり 生誕120周年で冊子」（呉・東広島版28面）
- 平成30年4月14日（土）日本経済新聞「パフォーマンスに焦点 美術館が相次ぎ公開 現代アート一大潮流に」（文化40面：Lifespan出演：富村准教授）
- 平成30年4月5日（木）読売新聞「ツバキ酵母で果実酒 呉高専生ら来月完成へ タンクや製造室自作」（広島28面）
- 平成30年4月3日（火）中国新聞「呉 果実酒で活性化 高専が試験醸造開始」（社会30面）

# 教育 改革 の 成 果

Realize Your Dream 君の未来を共に創る

※2019年1月現在

12月	けんみん文化祭ひろしま文芸祭（俳句）：特選（木村里風子選）2名
12月	第3回廃炉創造ロボコン：福島県知事賞
11月	Japan society junior fellows leadership program 2019に採択
11月	アイデア対決・全国高専ロボコン2018 全国大会：特別賞
11月	2018みんなの夢・アイディアコンテスト：大和ミュージアム館長賞
11月	平成30年度土木学会全国大会第73回年次学術講演会：優秀講演者
11月	第15回全国高専デザコン：構造デザイン部門優秀賞
11月	第7回河野裕子短歌賞（青春の歌の部）：京都府教育長賞
11月	第58回広島県高等学校総合演劇大会：特別賞・尾三地区高等学校演劇連盟会長賞
10月	第34回中国地区高専英語弁論大会：シングルプレゼンテーション部門2位（全国大会出場）
10月	第34回中国地区高専英語弁論大会：暗唱部門第1位
10月	アイデア対決・全国高専ロボコン2018 中国地区大会：全国大会出場
10月	3rdSTI-GIGAKU2018：BEST POSTER AWARD
10月	IEEE/Radio & Wireless Symposium 2019 に採択（3件）
9月	日本設計工学会2018年度春季研究発表講演会：学生優秀発表賞
8月	第42回全国高等学校総合文化祭 小倉百人一首競技の部：団体戦（広島県代表選手）
8月	第10回全国高等学校鉄道模型コンテスト モジュール部門：優秀賞
6月	呉地域OCN会議「学生の夢実現プロジェクト」に採択：A部門2件/B部門1件
5月	TOMODACHIHondaグローバル・リーダーシップ・プログラム2018に採択
5月	2018夏休み留学奨学金「名門大学UCSDでひと夏を過ごす」に採択
5月	第70回土木学会中国支部研究発表会：若手優秀発表者（4名）

呉高専ではホームページで  
球技大会、高専体育大会、駅伝大会、ロボコン大会等、  
校内外の行事や授業風景、寮の様子、クラブ活動など日々の学生生活を  
「呉高専日誌」で紹介しています。



呉高専

検索

呉高専ホームページ  
<https://www.kure-nct.ac.jp/>



呉高専だより 78号 2019年3月

編集・発行 呉工業高等専門学校 広報室

〒737-8506 呉市阿賀南2丁目2-11

TEL. 0823-73-8964 mail. kouhou@kure-nct.ac.jp